

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2017年7月24日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部4
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	ジュネーブ大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input checked="" type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界:)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他()		

派遣先大学の概要

ヨーロッパ国連本部や様々な国際機関の本部があるジュネーブは国際都市として有名。同時に、大学は1559年にカルヴァンによって創設された神学校に端を発し、ルソー、ソシュールとのかかわりがあり、人文科学の面からも長い歴史を持つ。主要言語はフランス語であるが、スイスという特殊な言語的状況、留学生の多さ(全学生の1/3)によって、かなりマルチリンガルな大学である。私が所属していた哲学科は、ヨーロッパにおいて不思議なほど分析系に特化しているが、教授陣・博士課程の学生の協働によって、かなり質の高い授業が行われている。

留学した動機

修士課程での研究の前に、海外留学を経験しておくこと、フランス語能力を向上させておくことは、将来の方向性を考えるうえでも、今後の研究においても、非常に有意義だと考えた。

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況:	2016年	学部4	年生の	S2	学期まで履修
②留学中の学籍:	留学				
③留学期間等:	2016年	9月~	2017年	7月	
	学部4	年時に出発			
④留学後の授業履修:	2017年	学部4	年生の	A1	学期から履修開始
⑤就職活動の時期:	2019年	修士2	年生の	4月頃に	行う予定
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位			74	単位
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位			0	単位
	留学後の取得(予定)単位			10	単位
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2013年	4月入学	2018年	3月卒業/修了	
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:	5年		ヶ月間		

⑨留学時期を決めた理由:

学部段階での留学ができる最後のチャンスだった。また、ある程度専門性と語学力が高まってからでないと留学の意味も半減すると考えたため、結局4年次からの留学となった。

留学準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

ジュネーブ大学留学生として認知されると、国際交流課から専用のウェブサイトとパスワードが指定され、ネット上で入学手続きを進めるので、メールボックスをこまめにチェックする。手続きはそこまで煩雑ではないが、手書き資料をすべてjpglにして送信するなど手間はかかる。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

スイスの場合ビザは、現地に着いてから3か月以内に郵送で手続きを始めればよい。手続きには時間がかかり半年ほどビザなしで暮らすことになる(ビザなしで途中帰国する場合やシェンゲン外に出る場合は、手続きを進めている証拠書類をそろえて空港に行かないと警察に捕まる)。現地について直接OCPM(移民局)に顔を出すと2倍近くお金がかかるため、大学の指示に従い、必要書類を郵送し、予約を取ってからそこに向かうとよい。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

東京大学で一括で入る保険には歯医者が含まれていないため、渡航前に歯のメンテナンスをした。ジュネーブの物価ははかなり高いため、常備薬は日本から持っていくことをお勧めします。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

東京大学で一括で入る東京海上日動の保険を利用。ただし、EU外の学生は現地でスイスの保険に加入する必要がある。日本の保険をヴァリデーできる道はあるが、保険会社によるサインとハンコが必要になるなど手続きが煩雑(ただし自分を含めSAM(保険局)との交渉によっては日本の保険が例外的に認められた場合もある)。日本でスイスでも有効な保険に加入したにもかかわらず、現地で新たに保険料を払うことになる学生も多数いた。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

留学前に卒論以外の単位はそろえておいた。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

出国前にDELFのB2を取得。検定試験の問題集を使って学習。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

デビットカードは現地のATMで現地通貨を引き出すことができるため、キャッシングや両替よりも有利。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。

授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
近代文学における人種の形象	4		セクシュアリティの心理学	4	
科学哲学	4				
カント	4				
エピステモロジー	4				
懇願と請願	4				

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)
ChamiloというITCLMSのようなシステムが充実しており、そこに授業のパワポ、読むべき論文、その他必要な情報などがすべてアップロードされているため、それを利用して予習復習を行う。授業は一コマ90分で、CR講義、SE演習、TP講義付属の演習の三つの形態がある。テストには、筆記試験、論述、口述などがあり、それらに授業内発表が組み合わされることがある。
③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など
聴講していた授業も含め、一週間に6授業ほどに参加。リーディングアサイメントが多いため、日々の勉強時間はほぼそれに費やされた。
④学習・研究面でのアドバイス
講義と演習では授業の性格がまるで違うため、自分のレベルに合わせて組み合わせるとよい。学期初めには履修する授業の先生と話す機会を設け、成績評価の方法について話し合うとよい。授業には博士課程の学生がアシスタントとして参加しており、質問などを受けつけてくれる。
⑤語学面での苦勞・アドバイス等
Tandemやジュネーブ大学付属の語学学校ELCFなどを利用して、現地学生と積極的に交流し言語能力をなるべく早く高めるとよい。
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
大学付属の寮に滞在。A~D棟まであり、A・Bは家賃が490CHFほどで、キッチンシャワーを16人(階全体)で共有する。C・Dは560CHFほどで個室にシャワーがありキッチン6人ほどで共有。D棟が最も新しい。ジュネーブ大学国際交流課からのメールに、寮の申し込み方が書いてあるので、それに従えばよいが、申し込み開始後すぐ行わないとすぐ定員に達してしまう。その場合私立の寮などを自力で探すことになる。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
大学、スーパー、駅、寮を3番のバスが結んでいるため、生活は非常にコンパクト。支払いはほぼクレジットで済ませたが、現金が必要になる場合もあるので、デビットカードなど、現金調達の手段を出発前に整えておく。物価が高いため、外食は控え、なるべく自炊をするなどの工夫が必要。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
ジュネーブは比較的治安が良いが、危険なことをすれば盗難にあうのは当然。荷物を置きっぱなしにしていたり、トラムの中で口の大きくあいた鞆をさげたりして被害にあった友人は多い。気温についていえば、冬はマイナス10度以下になるため、防寒には気を付ける。
④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
・毎月の生活費とその内訳
700CHF(家賃・携帯・定期) 400CHF(食費) 100CHF(交通費) その他旅行費・雑費
・留学に要した費用総額とその内訳
17,000CHF(保険10万円、航空機代16万円、生活費11,000CHF、旅行費4000CHF、その他雑費)

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

東京大学経由でFung Schlorshipから毎月最終水曜日に10万円を支給されていた。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

ジュネーブ大学によって提供されるカルチャープログラムの中で、コンテンポラリーダンスの授業と演劇鑑賞の授業に参加。また積極的に、演劇、バレエ、オペラ、コンサートに足を運んだ。ESTASIAの学生とGlobal Villageに参加。長期休暇中には旅行をした。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

ジュネーブ大学のアジア系学部学生で作るESTASIAという学生団体があり、その学生らによって、留学生を交えた交流会、留学生への生活面でのサポートなどが行われる。また、語学面で言えば、毎学期ジュネーブ大学付属の語学学校ELCFIによって、フランス語のサポート授業が行われる。留学生は2授業まで無料で受けることができ、語学レベル、分野によってさまざまな授業が行われている。単位取得も可能。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

ジュネーブ大学にはいくつかキャンパスがある。文学系は主にUni Bastions、社会学系は主にUni Mailというところで行われるが例外もある。それぞれのキャンパスに図書館や食堂が供えられておりサービスも日本同様充実している。また大学全域でWi-Fiの使用が可能。大学によってさまざまな文化的・スポーツ的クラスが提供されており(有料)、自分で興味のあるクラスに参加することが可能。自分は、演劇鑑賞とコンテのクラスに参加していた。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

スイスでも学生にとって就職活動は厳しいもので、そのため学部三年生時(最終学年)においては、就職を目指す学生はほぼインターンに専念する。日本と最も違う点は、高校卒業後大学進学を選ぶ学生は全体の25%しかおらず、apprentissage(実習)を経てそのまま就職する学生が多い所(しかし日本と違って、学士との生涯収入格差はほぼない)や、就職してから大学に入りなおす学生も多いところなど、ライフコースも多様。

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

自分は参加しなかったが、留学期間中ロンドンで日系企業就職説明会が開催されており、そこに参加した日本人学生が多数いた。また独自にチュニジアのNGOでインターンをした学生もいた。

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

- | | |
|--|--------------------------|
| | 1. 研究職 |
| | 2. 専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) |
| | 3. 公的機関(機関名:) |
| | 4. 非営利団体(団体名又は分野:) |
| | 5. 民間企業(企業名又は業界:) |
| | 6. 起業(分野:) |
| | 7. その他() |

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

現地の学生コミュニティに深く溶け込むことができ、友人との交流の中で、今までの自分には無いと思い込んでいた、外に向かって開かれている面に気づかされた。日本にいる間に勝手に作り上げていた「自分らしさ」を反省し、外からの情報を吸収し相互作用し続ける一年だった。しかし同時に、一年間留学したところで、性格が激変するわけでもないし、知識量が飛躍的に拡大するわけではない(言語能力は伸びるが)ことにも気づいた。留学後も決しておごらず、地道に勉強を続けていくことが必要。

②留学後の予定

修士課程

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

どこの大学に留学するにせよ、現地での人間関係を作ったり、より多くの情報を吸収するためには、現地の言葉でしっかりコミュニケーションできることが必要。検定試験などを利用し、自分で目標を定め、語学を継続してやることが大切。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

ジュネーヴ大学文学部留学生向け情報

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2017年07月14日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部3
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	ジュネーヴ大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職		2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
	3. 公務員		4. 非営利団体
	✓ 5. 民間企業(業界:)		6. 起業
	7. その他()		

派遣先大学の概要
スイスのジュネーヴにある総合大学。1559年にジャン・カルバンにより創設された。規模としてはスイスで2番目。

留学した動機
フランス語、英語ともに語学力を伸ばすこと、中立国という独特の立場にあるスイスに根付く考えを吸収すること、国際機関の現場を実際に見聞きすること。

留学の時期など						
①留学前の本学での修学状況:	2016年	学部3	年生の	S2	学期まで履修	
②留学中の学籍:						
③留学期間等:	2016年	9月~	2017年	6月		
	学部3	年時に出発				
④留学後の授業履修:	2017年	学部4	年生の	A1	学期から履修開始	
⑤就職活動の時期:	2018年	学部5	年生の	3月頃に	行う予定	
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位			38	単位	
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位			21	単位	
	留学後の取得(予定)単位			59	単位	
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2014年	4月入学	2019年	3	月卒業/修了	
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:	5年		ヶ月間			
⑨留学時期を決めた理由:						

学部の勉強を1年終え、専門性を少し身につけていること、親の定年の前であったこと

留学の準備
①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)
基本的に指示通りに行えば問題ない。履修の本決定は授業開始2週間後にあるので、入学手続きの際の履修登録は調査くらいだと思って進めれば良い。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)					
<p>スイスの場合はビザは必要なく滞在許可証が必要となる。日本からやっておくと1万円くらい安くなるので良いが、現地に着いてからでも十分間にあう。現地でやる場合、窓口で申請しようとする時間によってはひどく混雑しているため郵送提出をお勧めする。ビザ期限の3か月を過ぎても届かないことは多々あるのでそこは心配いらないが、申請後2か月以上経っている場合は先方にメールを送り確認すると良い。ビザ関係の窓口(OCPM)は返信がかなり早く1日すれば絶対に返信が来るのでその他質問もメールですれば良い。</p>					
③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)					
<p>学校で指定された保険だけ忘れなければ特に心配はいらない。</p>					
④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)					
<p>大学で指定された保険に入れば十分。</p>					
⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)					
<p>指示通りに進めれば良い。</p>					
⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)					
<p>授業や日常会話ともに、英語も使えるが、基本的にはフランス語なので、事前にフランス語を勉強しておくことをお勧めします。</p>					
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど					
<p>特にありません。</p>					
学習・研究について					
①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合) ※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。					
授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
フランス語(作文)	12	●	国際人道法	6	
政治・法学の思想史	3	●	テロと国際関係	6	
国際協力	6	●			
スイスの外交	6				
多極主義と国際機関	6				
②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)					
<p>基本的には授業の録音を聞き返していたが、やはり語学力が足りず自前のノートだけではなく、友達にノートを見せてもらいつつ学習を進めていた。国際人道法はジュネーブで起草された条約でもあり、留学先のジュネーブでフランス語で作られた条約でもあったのでここで学べよかったと思う。</p>					
③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など					
<p>平均4科目・20単位強。週の授業は14時間程度で、一科目3時間は予習復習にかかっていたので、少なくとも26時間以上は授業関係のことを学んでいた。</p>					
④学習・研究面でのアドバイス					
<p></p>					

⑤語学面での苦勞・アドバイス等
話せる話せないは関係なく、とりあえず話しかけること。怖じ気付かずにコミュニケーションをすることが一番の上達方法だと思う。
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
大学を通じて申し込んだ。調べると若者向けの住宅30こくらいをまとめたパンフレットがあるので、そこにも申し込んだ方がよりよい。大学を通じたものだけを申し込み、もし断られた場合(毎年20-30人の留学生が家がなくなる)、若者向けの住宅が不足する家を見つけるのはかなり難しいので、事前に打てる手はあらかじめ全て打っておくことをおすすめする。以下に使えるようなパンフレットのURLを貼っておきます。 http://cite-uni.unige.ch/uploaded/docs/Brochure%202015-2016%20Logements%20meubl%C3%A9s.pdf
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
外食はかなり高いので基本自炊になると思います。その他では特に苦勞することないくらいには、交通網やお店が揃っています。お金は現地で口座を作り、海外送金で一括して100-200万くらい送ってもらう方法が一番手数料が少なくすむ。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
治安はかなりいいと思うので特にない。
④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
・毎月の生活費とその内訳
20万程度。住居費5万、食費6.5万、その他雑費1.5万。それとは別に毎月旅行費5万くらいは使っていたと思う。
・留学に要した費用総額とその内訳
200万程度、上記の費用を10倍していただければと思います。
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
学校から案内された奨学金。ただジュネーヴならば、大概の奨学金では額が足りないことが多いので、「飛び立て」を申し込むことを強くお勧めします
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
バレーボールの同好会に入り週一回バレーをしていた。
派遣先大学の環境について
①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
全体的に充実していたと思うが、住居関係は一度大学の手を離れると、大学の事務所に相談しても全くだいじょうぶな情報提供してくれないので注意。タンデムという語学交流のシステムがあり、一対一で互いに語学を教えあうことができる。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
東京大学よりは図書館は小さいが、他は同じくらいには設備が揃っている。

留学と就職活動について	
①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど	
年齢が1年上になってしまった。帰国日が少し遅かったためサマーインターンへの参加が遅れた。	
②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響	
自分の将来の道をはっきり考え決める時間ができた。	
③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)	
特になし。	
④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください	
	1. 研究職
	2. 専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:)
	3. 公的機関(機関名:)
	4. 非営利団体(団体名又は分野:)
	5. 民間企業(企業名又は業界:)
	6. 起業(分野:)
	7. その他()
留学を振り返って	
①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感	
自分の場合は語学力の向上を含めたコミュニケーション能力が上がったことが大きな成果だと思う。使用言語に関わりなく、自分の意見を発する姿勢を身につけることができた。	
②留学後の予定	
最終的には、NGOか国連でアフリカの紛争解決を行いたい。そのために、30までに職務経験と、紛争解決の修士をとりたいと考えているが、どのように獲得していくかは未定。	
③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス	
なんとなく生活するとなんとなく時間は過ぎるので、自分なりの目標なり成果が出るように、時々生活を振り返りながら生活をすると思います。	
その他	
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物	
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。	

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2017年10月10日

東京大学での所属学部・研究科等:	文学部	学年(プログラム開始時):	学部4
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	ジュネーヴ大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input checked="" type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界:)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他()		

派遣先大学の概要

大学ランキングにも上位で顔を出すジュネーヴ大学は、人文学に強く、理系に強いチューリッヒ大学と文理の双壁をなす大学である。

留学した動機

フランス語能力の向上のため。所属学科では読むことに重点が置かれているが、その読む能力の向上のためにも会話、作文といったトータルとしてのフランス語を伸ばす必要を感じたから。またドメスティックな環境を離れ、外国人と接する機会がほしかったから。

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況:	2016年	学部4	年生の	A2	学期まで履修
②留学中の学籍:	休学				
③留学期間等:	2016年	9月~	2017年	7月	年時に出発
④留学後の授業履修:	2017年	学部4	年生の	A1	学期から履修開始
⑤就職活動の時期:	年		年生の		月頃に
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位			68	単位
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位			0	単位
	留学後の取得(予定)単位			14	単位
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2012年	4月入学	2018年	3月卒業/修了	
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:	6年		0ヶ月間		

⑨留学時期を決めた理由:

例年、所属学科の4年生が留学していたためその通例に従った。またフランス語を始めて2年たち留学するのに最低限の知識はあると考えたため。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

特に煩雑なことはありませんが、どこに住むかは早く決めないと、とりわけジュネーブの住宅事情は厳しいので住む場所がないなんて事態になりかねません。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)					
ビザは必要なし。					
③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)					
胃薬は持参したが、特に持病もないために他の薬は殆ど持っていかなかった。					
④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)					
東大で加入させられたもののみ。					
⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)					
一次審査用の書類提出と二次面接					
⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)					
殆ど外国語で会話をしたことがない状態であったが、フランス語で本は読んでいた。かなりいびつであり、またフランス語能力を測るテストも受けていなかったのが正確にはわからないが、B1からB2の間の実力だったと考えている。					
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど					
日本語で書かれた書籍はもっていくべきだと思います。					
学習・研究について					
①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合) ※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。					
授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
Molière	2				
le cahier d'un retour au pays natal	2				
Mallarmé	2				
les fables de La Fontaine	2				
Héliogable	2				
②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)					
文学の演習にあたって、参考となる論文を課題として毎週のように提示する授業があり、その要求の多さに驚くと同時に刺激的時間を過ごすことにつながった。					
③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など					
6コマ程度出席していたが、実際に単位をとったのは3コマ程度。多くの授業を取るよりも少ない授業に予習復習、レポートと多くの労力を傾注した方が身になると思います。					
④学習・研究面でのアドバイス					
アドバイスができるレベルにありませんが、日本にいるとき以上に根気強く学習を続ける必要はあると思います。					

⑤語学面での苦勞・アドバイス等
自分の好きな話題を共有できる人を見つけましょう。あるいは好きな人(友達、恋人)を見つけましょう。それに越したことはありません。そのためにも留学前に最低限のコミュニケーション能力を身につけておく必要があります。
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
大学の学生寮。大学から留学の審査が通ってまもなく学生寮についての情報が来る。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
冬場は厳しい気候であると同時に霧に覆われた街には鬱屈した雰囲気漂う。交通なども便利であるが、スーパーなどととも深夜と土日の営業時間には注意が必要である。UBSというメガバンクで口座を開いた。また渡航前に海外用の口座を三井住友銀行にて開いた。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
常にかばんは前にして歩くこと。大病はしないように少々の体調不良でも安静にすること。
④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
・毎月の生活費とその内訳
賃料5万 食費4万 書籍1万 交際費2万 旅行費 3万
・留学に要した費用総額とその内訳
航空費 13万 保険代10万 月々15万 これに旅行費など合わせて200万程度
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
留学先の大学から月に14万円程度受給(9か月)
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
休暇の多くは旅行に充てていた。ボランティア等は行っていない。
派遣先大学の環境について
①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
バディシステムは機能していなかったが、アジア学科の学生が友好的で各種イベントを行っているので生活・精神面で重要な友人の確保という点で不足はない。語学に関しては言語交換の相手を見つけるためのサイトがあり、多くの学生が利用している。また語学の授業もあるためにバックアップ体制は整っているといえる。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
全て満足のいくレベルにあるが、問題は利用できる時間が短いことである。特に食堂は17時前に閉まる。
留学と就職活動について
①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響	
③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)	
④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください	
	1. 研究職
	2. 専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:)
	3. 公的機関(機関名:)
	4. 非営利団体(団体名又は分野:)
	5. 民間企業(企業名又は業界:)
	6. 起業(分野:)
	7. その他()
留学を振り返って	
①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感	
学部留学ということもあり、研究の点で進展がそれほどあったわけではないが、留学は日本というそして東大という甘えた環境から無理やりでも抜け出すひとつの方法であり、小手先や頭のなかだけではなく身体そのものエコノミーを組み替えることができると感じた。	
②留学後の予定	
大学院に進学予定。	
③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス	
直接勉強ではなく、自分の生存環境を変えることに役立つと思います。それが間接的に勉強にも返ってくるのではないのでしょうか。どうしても今すぐにやりたい研究があるならば無理に留学することもないと思います。	
その他	
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物	
wikipediaとYoutubeはどんどん利用すると思います。情報源としてではなく、簡便な学習ツールとしてです。特にWikipediaは日本語版と比べると充実しています。これは他の信頼できる辞書においても同様で、電子辞書だけでなくネットの辞書も活用すべきです。	
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。	

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2017年 7月20日

東京大学での所属学部・研究科等:	法学部	学年(プログラム開始時):	学部3
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	ジュネーブ大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input checked="" type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界:)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他()		

派遣先大学の概要

スイスのフランス語圏最大の総合大学。国際関係学部と経済学部の一部及び文学部英文学科の英語の授業を除くと、授業は主にフランス語で行われる。

留学した動機

理想の外交官になるべく、国際関係論を集中的に学び、フランス語を含めて語学力を強化し、また世界中の学生と触れ合い異文化を理解する経験を積むこと。そのために国際機関が集積し国際平和の首都とも称されるジュネーブへの留学を選択した。(しかし、留学決定後の様々な経験から次第に自分と将来についての考え方が変わっていき、人文系の研究者になることが目標となったため、結果的にはジュネーブでは主に哲学を勉強していた)。

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況:	2016年	学部3	年生の	S2	学期まで履修
②留学中の学籍:	留学				
③留学期間等:	2016年	9月~	2017年	6月	
	学部3	年時に出発			
④留学後の授業履修:	2017年	学部4	年生の	A1	学期から履修開始
⑤就職活動の時期:	2019年	学部4	年生の	1月頃に	行う予定
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位			46	単位
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位			12	単位
	留学後の取得(予定)単位			38	単位
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2014年	4月入学	2019年	3	月卒業/修了
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:	5年		0ヶ月間		
⑨留学時期を決めた理由:					

学部二年生になった頃に、自分の価値観や考え方が定まらず柔軟なうちになるべく早く長期留学を実現させたいと考えるようになった。制度・手続きの観点から、当時もっとも早くで留学を開始できるのは学部3年9月からだった。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

ジュネーブ大学のホームページには「交換留学生は所属学部の授業を履修できるだけでなく、二つの学部の授業を履修できる」というような説明があり、結局のところ授業を選択できる学部の数は二つなのか三つなのか判断とせず、履修計画を立てるにあたって非常に困った。結果的に言えば、①授業選択できる学部の数は、所属学部を含めて二つ。②ただし、文学部所属のELCFという学科が開いているフランス語講座は、学部選択の数には含まれないというルールだった。このことを早めに知っていると、履修計画が立てやすいと思う。また、ジュネーブ大学は留学確定前の学生からの質問には答えてくれないので、質問があれば留学経験者を見つけて尋ねる必要がある。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ビザは不要だった。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

スイスの医薬品は非常に高価なため、日本で準備できる薬はなるべく持参した方が良い。予防接種の必要はない。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

大学に指定された保険に加入するだけで十分だった。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

所定の手続きを行った。試験の繰り上げなどの特別なことは行わなかった。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

フランス語での勉強には不安があったため、出国一年前から友人とフランス語の勉強会を定期的に行っていた。またジュネーブ到着前に3週間パリに滞在し、語学学校でフランス語を学んだ。日本出国前の語学レベルはB2で、ジュネーブ大学入学当初は授業をあまり聴き取れず相当苦労した。可能ならばC1レベルまで日本でレベルをあげておけると楽だと思う。とはいえ日本でC1レベルのフランス語を習得するのは極めて難しいので、私のように事前にまとまった時間を取って語学留学することを勧めたい。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

スイスはほぼあらゆる分野において物価が非常に高い。日本から持参できるものは可能な限り持参することを勧めたい。また、出国前の夏学期に多くの授業を履修しておけば、出国前に受験しなかった試験を帰国後の試験期間に受けることが可能なため、残りの学期の学習の負担が軽くなる。そのことを念頭に実際に受験以上の授業を履修しておくと思う。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。

授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
フェミニズムと女性表象	4ECTS	●	形而上学演習	4ECTS	●
文化外交史	4ECTS	●	前衛芸術の社会学	4ECTS	●
カント哲学	4ECTS	●	フランス語筆記(B2-C1クラス)	2ECTS	
認識論	4ECTS	●	フランス語会話(B2-C1クラス)	2ECTS	
形而上学	4ECTS	●			

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

授業は講義が主で英米系の大学で見られるようなディスカッション主体の授業はなかったが、授業中の学生からの質問が非常に多く、そこから自然に教室全体でディスカッションが始まることしばしば見られた。予習・復習は各学生に任されている授業が多かったが、授業ごとに参考文献や論文が提示されており、各授業前にそれらに目を通すことは最低限行っておく必要があった。授業ごとに、期末試験、平常点、レポート、小論文、口頭試験の中から複数の評価方法が提示され、一人ひとりが自らに都合の良い評価方法を選ぶことができる点は特徴的であった。また、スイスの国柄を反映し非フランス語圏出身の教師が比較的多く見かけられた。政治学や経済学など履修者の多い授業では、大学側から公式に授業の録音が学生に配信されていた点も印象的だった。春学期は哲学の授業を中心に履修していたが、ジュネーブ大学の哲学科は大陸ヨーロッパの中では珍しく英米哲学を専門にしており、学生も皆英米哲学の思考スタイルを持っていた点が興味深かった。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

秋学期は5つ、夏学期は4つの授業を履修し試験を受けたが、他にも秋学期は2つ、春学期は3つの授業を聴講していた。それぞれの授業は基本的に週一回90分だが、加えて授業準備に必読の論文や参考書などが課されていた。授業外学習の負担は授業によって大きく異なったが、少なくともどの授業も授業時間以上の時間を自習に費やす必要があった。

④学習・研究面でのアドバイス

留学生の中には授業を録音し自宅で聴き直すことで語学面の壁を克服しようとする人もいと聞いていたが、実際にやってみたところ聞き取れない部分は何度も聞き直しても分からないままであることも多く非常に非効率であるように感じられた。授業で頻出するであろう単語やアカデミックな文脈でよく使われる言い回しを事前に徹底的に覚え、授業は一発勝負で臨み、聞き取れない故の遅れは自習で克服する方がより学習も促進されるし、効率的であると思う。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

秋学期は語学力が伸びず苦勞したが、春学期にはかなり楽に聞き取れるようになった。語学の教材を使った反復学習も重要だが、授業で使われる単語やフレーズは分野によってある程度限定されているので、上述の通り、その分野のフランス語の教科書や参考文献を繰り返し読み、頻出フレーズや単語を頭に入れることが効率的だった。大学が提供している語学の補助の授業も有用だった。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

ジュネーブ郊外に位置するCité Universitaireと呼ばれる学生寮に滞在していた。ジュネーブ大学への留学生はCité Universitaireに申し込むことと、その他のジュネーブ各地の学生寮の中から空き部屋が見つかり次第割り振りが行われるシステムに申し込むことの二つが可能だったが、私は両方に申し込んだものの前者でしか部屋を見つめることができなかった。家賃は月510フランでジュネーブの中では安い方にあたる。私の部屋は山に臨んだ南向きで日差し良好であったが、日差しの良し悪しは割りあてられる部屋によって大きく異なる。一人部屋だがシャワー、トイレ、キッチンが共用。特にキッチンは小さいキッチンで16人で使うため、空いているときにまとめて料理することが多かった。棟によっては4人でのコロカシオン(ルームシェア)も可能。プライバシーを確保したかったため一人部屋を選んだが、コロカシオンでも十分プライバシーは確保されている印象だった。宿泊者は交換留学生も学部・院の正規学生も見られたが、外国からの留学生が多かった。寮生とは英語での会話が良かったが、フランス語を学んでいる人も多く、フランス語話者がいる場面ではフランス語が会話の中心となることもあった。週に一度映画の上映会が開催されるほか、数カ月に一度はパーティーも開催されていた。また、スポーツ施設もあり、小さいながらレストランやピザ屋もあったため小さな学生街のような雰囲気のある寮であった。街の中心からは少し離れているので街に出ることが億劫なこともあったが、寮の目の前がバス停となっているため特に不便であるわけではなかった。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

9月、10月や5月、6月は汗ばむほどの陽気に恵まれることもある一方、12月、1月は気温がマイナスに達することもあった。しかし降雪は長くは続かず、スイスの一般的なイメージと比べれば温暖な気候である印象を持った。大学の建物は街中に散在しているが、小さな街なのであまり不便ではなかった。学生向けのレストランやバーなどは決して多くなく、東京大学のような大きな食堂があるわけでもない。そのため、昼ごはんは持参するか、キャンパス内で700円程度のサンドイッチを食べている人が多かった。大学、ショッピング街、公園、コンサートホール、美術館など多くの施設が互いに徒歩圏内にあるウエトラムが至る所に走っているため、移動は非常に容易である。食事は安いレストランがほぼ存在しないためスーパーで食材を買い寮で自炊することがほとんどだった。お金は海外からも引き出し可能な日本の銀行の口座を作り、そこに振り込まれる奨学金と仕送りだけで生活していた。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

ジュネーブの治安は非常に良い。駅周辺は少し移民が多いなど注意が必要であるが、大学周辺では危険を感じたことは一度もなかった。ただし、友人の中には、湖岸でパーティーをしている間にカバンを盗まれた者や図書館でパソコンを盗まれた者もいたため、日本と比べればやはり注意が必要であることには変わりない。ジュネーブの日本人の留学生は比較的多く、日本人留学生コミュニティが存在していたため、ストレスの溜まる時は日本人と話し食事などをする事で解消可能であった。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

家賃は6万円、その他に月平均18万円の出費があった。うち食費が6万円程度。長期休暇に旅行に出かけることが多かったため、交通費・娯楽費が多くの割合を占めていたと思う。また、書籍代もかさんだ。

・留学に要した費用総額とその内訳

270万円。内訳:家賃が60万円、ジュネーブでの生活費と旅行費が約180万円。加えて日本からの往復の航空賃が15万円、パリでの語学留学中の授業料が15万円。

⑤奨学金(支給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

業務スーパージャパンドリーム財団様より奨学金を月に15万円支給していた。東京大学の留学情報サイトで見つけ、大学を通して応募した。最終面接が神戸で行われるため少し心理的なハードルがあったが、結果的には応募してとても良かったと思う。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

ジュネーブ大学の合唱団(Chœur de l'Université de Genève)に入り、週に一度の練習に参加した他、三回の舞台を経験した。長期休暇には旅行に出かけることが多かった。週末は授業の予習・復習や自主的な勉強に費やすことが多かったが、そのほか友人と街のイベントに出かけたり、日本からの友人を招いてジュネーブを案内したりすることもあった。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

語学面については、大学が提供するフランス語の補助講座に多くの留学生が出席しており、実際の学習においても役立っていたと思う。最も不満が残ったのは住居確保の点。留学生はジュネーブ大学を通して住居斡旋システムに登録できるほか大学と連携した学生寮に申し込むことができるが、どちらにおいても、住居の確保は保証されていない。ジュネーブは深刻な住宅難が続いており(空き家率は0.1%と言われている)、住宅の確保は至難を極める。滞在初日の留学生向けオリエンテーションにおいてすら、未だ住居が見つからないという留学生が散見された。また制度の都合で滞在中に他の住居への移動が必要となったケースでも、住居の確保は自助努力に任されており、非常に苦労した友人もいた。ジュネーブ大学への留学生には、留学確定後、大学の斡旋を待たずに自ら見つける限りの学生寮に応募することを勧める。私の場合、最終的に学生寮の部屋を確保できたから良かったものの、住居斡旋システムでは最後まで住居は紹介されず、自ら応募した5つの学生寮も全て落選してしまい、あわや住居なしというところだった。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

図書館は基本的に夜10時に閉館、サンドイッチスタンドこそあれ安価な学生向け食堂は存在しないなどの点については不満だった。大学主催の様々な種類のスポーツクラブや文化系サークルが存在し多くの機会が提供されていた点については良かったと思う。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

行っていない。

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

様々な職歴の人物と会うことを通して、強迫観念的に日本での就職を考える必要はないと感じるようになった。

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

ボストンやロンドンでのキャリアセミナーで内定を得て就職活動を終えた友人もいたので、そのような手段も積極的に考えてみると良いかもしれない。

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

- | | |
|--|--------------------------|
| | 1. 研究職 |
| | 2. 専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) |
| | 3. 公的機関(機関名:) |
| | 4. 非営利団体(団体名又は分野:) |
| | 5. 民間企業(企業名又は業界:) |
| | 6. 起業(分野:) |
| | 7. その他() |

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

私は、将来の目標が外交官から人文系の研究者へと変化しつつある中で留学開始を迎えた。留学先では多くの新たな他者と出会い、人生がいかに自由であるかを実感した。それを踏まえ、人文系の思考がより身近なヨーロッパでの生活・旅行を経験する中で、自分が今一番やりたいと感じる学問に素直に身を投じてみようかと決心するに至ったのが留学を通じた最大の変化である。さらに言えば、中高一貫の都内進学校を卒業しエスカレーターとも揶揄されるコースを多くの友人とともに歩んできた私は、スイスに飛び出すことで一度一人になり(そもそも生まれて初めての一人暮らしでもあった)、今までよりも圧倒的に多様な考え方や出会うことを通して、ようやく自分という人間に固有の生を生きる勇気を得られたような気がしている。他にも、「日本」や「日本的」という言葉についても一度日本と距離を置いたことで考え方が変わったほか、フランス語力も大きく向上するなど、留学を通して経験した変化は限りない。

②留学後の予定

法学部の勉強と平行して哲学の学習を重ね、卒業後は東京大学大学院の研究科を第一志望に、大学院に進学したいと考えている。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

留学を通して何をしたいのかをよく考え、何ができるのかをよく調べて留学計画を立てることが重要であるのは間違いない。一方で、留学志願から出国するまでの時間にも人間は大きく変わりうるし、留学してからの出会いと発見によって留学計画を見つめ直す必要にかられる可能性も大いにある。出国直前から留学初期にかけて将来の目標が大きく揺らぎ、留学先での所属学部を留学中に変更するに至った自分の経験はほんの一例である。学部レベルでの交換留学では特に、予定通りの留学は良くも悪くもあり得ないと思う。訪れる変化の連続に対してオープンになり、自己の変容を他者との偶然的な出会いに委ねることもまた留学であるのだから、自己と環境のコントロールや理想の達成という強迫観念を抱く必要はない。「予想外」との出会いを大いに楽しみながら、留学準備にも留学生活にも臨んでほしいと思う。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

留学前に、留学予定者が集い日本社会や日本文化について学ぶJISS (Japanese International Student Society) という団体に所属していた。留学中に互いを訪れあえるような留学仲間を得たほか、日本人とは何かなど、留学中何度も自問することになるテーマで議論しあえた時間は非常に貴重だった。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

なし

	2016				
	2016	9		2017	6
	2017				
	2017			12	
	2014	4		2019	3
		5		0	

--

